

MOA 美術館

PRESS RELEASE

2024年7月6日(土)

報道機関各位

新作を加えて進化！

『ポケモン×工芸展 一美とわざの大発見』開幕

本日 9:30、MOA 美術館（静岡県熱海市）で『ポケモン×工芸展 一美とわざの大発見』が開幕した。早朝から開場を待つ行列ができ、子どもから大人まで、また海外からの観光客など幅広い来場者を集めている。伝統柄「工字繫ぎ」の着物を身につけたピカチュウもお祝いに駆けつけた。

人間国宝から若手作家まで 20 名が金工、漆芸、染織、陶芸など多様な技法とスタイルで制作した約 80 点に加えて、当館では参加作家のうち 2 名（城間栄市、葉山有樹）が新作を発表。8月3日（土）には「トークイベント」でも登壇する予定。昨年 3 月から 6 月まで、国立工芸館（石川県）で開催され、「本格的な工芸とポケモンのコラボレーション」として話題を呼び、同館で過去最多の約 9 万 5,000 人が訪れた企画展が、進化した形で公開された。



開幕にあたり、10:30 から行われたオープニングセッションでは、MOA 美術館館長の内田篤呉が「ポケモンは生きている。生きているポケモンをいかに表現するかが重要で、作家の皆さんがとても真剣に取り組み、作品を制作している。また、当館展示室の建築意匠は杉本博司さんが手がけており、まさに現代アート。この現代アートの空間にポケモンたちが鎮座していて、MOA 美術館らしい特色あるポケモン×工芸展になった」と挨拶。

本展を監修した国立工芸館館長の唐澤昌宏は「会場では、子どもたちがポケモンの説明をし、大人が工芸について語る。そんな会話が弾む場面があちらこちらで見られると思う。また、ポケモンと工芸の出会いは、工芸ならではの表現やつくり手のこだわりを、ポケモンを通してわかりやすく見せてくれている。工芸の新しい可能性とともに、ポケモン世界の新たな一面も同時に楽しんでもらいたい」と述べた。

また、特別協力を行った株式会社ポケモン常務執行役員の田中雅美は「20名の作家の中にはポケモンと共に育った方もいるが、半数以上は生まれて初めてポケモンを体験される方。皆さん、ポケモンというテーマに『真剣勝負』を挑み、過去のご自身を超える新たなチャレンジをしてくださった」と語った。

《本プレスリリースに関するお問い合わせ》

MOA 美術館 広報

e-mail : moaart-info@moaart.or.jp

FAX : 0557-84-2570

《ポケモン×工芸展 静岡会場に関するお問い合わせ》

MOA 美術館 広報

e-mail : moaart-info@moaart.or.jp

FAX : 0557-84-2570

- 本企画展および関連イベントの詳細は、別添資料の通りです。
 - 別添資料に掲載されている写真素材をご入用の際も上記、MOA 美術館広報宛てにご連絡にお問い合わせください。
-

<提供写真素材>

1. オープニングセッション登壇者

主催：MOA 美術館 館長 内田篤呉（うちだ とくご）



監修：国立工芸館 館長 唐澤昌宏（からさわ まさひろ）



2. 伝統柄「工字繫ぎ」の着物を着たピカチュウとのフォトセッション

左から MOA 美術館 館長 内田篤呉、株式会社ポケモン 常務執行役員 田中雅美
国立工芸館 館長 唐澤昌宏



3. 会場風景

